

## 第6学年 英語活動案

## 1. 題材 FUKUOKAのまちを紹介しよう

## 2. 本活動設定の理由

## ○ こんな児童だから

本学級の子どもたちは、英会話活動に取り組んで3年目を迎える。これまでの3年間に、月・日にち・曜日・天気の違いや、色・動物の名前の言い方・尋ね方など様々なトピックに関して活動を行って“英語に親しもうとすること”や“GTとの会話を楽しむ”ことができるようになってきた。本年度1学期の英会話活動に関するアンケート調査では、「もっと楽しく・上手に話せるようになるためにはどうしたらいいと思いますか」という問いを行ったところ、「話す時間を増やす」37%に対して、同じくらいの割合で「聞く時間を増やす」30%という結果が出た。このことから、話すことばかりではなく、話すことと同じくらい聞く時間を十分にとり、もっと自信をもっていえるようになりたいと感じている児童が多いことが明らかとなった。

## ○ こんなトピックで

このような児童にとって、これまでの活動の中心を「話すこと・話させること」から、「十分に聞く」ことへと見直し、児童の興味・関心のある内で活動を進めていくことは、価値あるものだと考えられる。これらのことを踏まえ、本題材では、児童の身近な校区にあるものの施設紹介を第1時に位置づけ、その後、視点を広げ、福岡市にあるものの紹介・福岡市内での位置紹介へと段階的に単元を構成していく。この中で、第1時・第2時の新しい言語材料と出会う際の Listen and Repeat の時間を十分に確保し、それらを何度も繰り返し言うことができるような活動を取り入れる。このことにより、「自分から進んで話そうとする」児童の育成につながっていくものだと考える。

## ○ こんな「聞く活動」の工夫で

児童が、話してみたい・伝え合いたいという「コミュニケーションへの意欲」をもつことができるように、3つのステップを設定し、その中で、下記のような活動の工夫を行っていく。

まず、**ステップ1の「聞いて知る活動」**として、じっくりと聞く活動を取り入れる。まず、JLTとGTとのスキットにより、話題の大体をつかむことができるようにする。さらに、身近な校区の施設や福岡市内の施設・場所等の名前がカード化されたものを提示しながら、GTによりじっくりと発音の仕方を示す。これらにより、本トピックに対する期待感や意欲を高めることができるようにする。

次に、**ステップ2の「聞いて繰り返す活動」**として、はじめはじっくりと一音ずつ、慣れてきたらリズムにのって何度も繰り返す活動を組む。リズムボックスを使い、リズムや音の抑揚・高低に変化をつけたり、動作をつけたりして飽きずに何度も繰り返すことができるようにする。さらに、カードゲーム等の「聞いて・言って・反応する」型のゲームを取り入れることで、楽しみながら何度も聞き・話すことができるようにする。これらを通して、聞いた事柄の理解を深めることができるようにする。

最後に、**ステップ3の「聞いて使う活動」**として、実際に友達や教師との関わりの中で「使ってみる」活動を取り入れる。インタビュー活動を取り入れ、“What’s this?” “Where is this?”等の必ず必ず答えなければならない内容を尋ねる質問を行い、それらを自分の知っている情報をもとに相手に答えるというものである。自分の質問が相手に伝わった、相手の質問に対して答えることができたという、満足感や達成感を味わうことができるようにする。

## 3. 目標と1トピックの構成 (計3時間)

時	ね ら い	各時間のステップの構成と内容		
1	○ 校区にある施設の言い方・尋ね方に慣れる。 ○ 言い方や尋ね方を知り、積極的に言ったり聞いたりしようとする。	<ステップ1> ・スキット ・施設名・Key Sentence の紹介	<ステップ2> ・ Listen and Repeat ・チャンツ	<ステップ3> 「校区カルタ」
2	○ 市内にある施設の言い方・尋ね方に慣れる。 ○ 言い方や尋ね方を知り、積極的に言ったり聞いたりしようとする。	<ステップ1> ・スキット ・施設名・Key Sentence の紹介	<ステップ2> ・ Listen and Repeat ・チャンツ	<ステップ3> インタビュー活動1
3 本時	○ 施設や場所の名前・位置(方角)の言い方・尋ね方に慣れ、使おうとする。 ○ 自分の知っている情報を使って、進んで友達とわろうとする。	△ ス テ ッ プ 1 ▽	<ステップ2> ・ Listen and Repeat ・チャンツ	<ステップ3> ・「FUKUOKAの町をしようかいしようインタビュー」活動

## 5. 本時授業仮説

前時までに児童は、校区や福岡市内にある施設や建物の言い方や尋ね方を知り、GT による発音練習やゲームを通して、その表現に慣れてきている。そこで本時では、それらが福岡市内のどの方角に位置しているのかということについての言い方・尋ね方の表現に慣れることをねらいとする。そのために、まず導入の段階で、GT と JLT とのスキットを通して、位置の言い方や尋ね方のセンテンスを導入し、本時活動に対しての興味・関心と見通しをもつことができるようにする。また、チャンツのリズムにのって体を使いながら何度も聞き、声に出し言う活動を組むことで、飽きずに繰り返すことができるようにする。その上で、インタビュー活動2を設定する。インタビューを繰り返しながら、ペアでお互いの不完全な福岡市の紹介地図を完成するというものである。互いに自分の知っている情報をもとに、相手に教え、相手から教えてもらうという活動を繰り返すことで、満足感や達成感を味わい、自分から進んで話そうとする意欲を高めることができるようになると考えられる。

## 6. 本時 (3/3) のねらい

- 福岡市内の施設や建物・場所の言い方・やたずね方や位置 (方角) の言い方の表現に慣れる。
- GT や友達との「FUKUOKA のまち紹介」に関する会話を楽しむ。

## 7. 準備

福岡市の白地図・写真カード・センテンスカード・インタビューシート A/B・Reflection card

## 8. 本時活動の展開

Procedure	活動内容と児童の主な発言	主な発言 (●HRT○ALT)	支援と★評価
Greeting 5min.	1. はじめの挨拶をする。 Good morning R. It's Wednesday.	●Hello every one. ○How are you? ●what day is it today? ○what's the date today?	・お天気チャートのポスター等を活用しながら、日にちや曜日・天気・健康状態の言い方の確認をおこなう。
Activity STEP1	2. スキットを見て、本時のめあてをつかむ。 FUKUOKA のまちを紹介しよう! ～ 位置 (方角) の言い方・たずね方に慣れよう。～	○Today's aim is this.	・前時に学習した施設や場所の名前と Key Sentence を再度提示しながら、発音やリズム・抑揚等に関して確認することができるようにする。
STEP2 25min.	3. これまでの復習をする。 What's this? It's ○○○.	○Let's review. ●What's this? ○It's ○○○.	・本時のキーセンテンスを導入する際にもリズムにのって体を使って <b>listen and Repeat</b> を、行い、表現に慣れるようにする。
	4. 場所の言い方尋ね方を知る。 Where is this? It's in ~.	●What's this? ○It's ○○○. ●Where is this? ○It's in ~.	★GT の発音やリズム・抑揚をしっかりと聞き、真似をして言いながら表現の仕方を確認することができる。
STEP3 10min.	5. 「FUKUOKA の町を紹介しようインタビュー」を行う。 Excuse me. What's this? ●Where is this? It's in ~. Thank you..	○I will show you how to play. It's ○○○.	・2 種類のワークシートを作成し、その空欄をお互いの情報でうめていくようにする。 ・机間指導しながら、言い方・尋ね方の確認をする。 ★GT や友達との受け答えを楽しみながら、本時の表現に慣れようとしている。
Closing 5 min.	6. 活動を振り返り、Reflection Card を書く。 9. 次時の活動を知る。 10. 終わりの挨拶をする。 Thank you R. See you next time.	●Go back to your seat, please. ●please write your Reflection card. ●That's all for today. ○good job. See you next time.	・Reflection Card を書き終わった児童から、JLT やGT のところへ行き、簡単な会話を交わし、本時の確認を行うように促す。